図書館はまちのたからもの

市立図書館（本館）は今年、開館20周年を迎えます。すべての世代にわたって、自らの生活を豊かにしてくれる図書館はまちの『たからもの』です。

読む人に寄り添い、ある時は勇気づけ、ある時は新しい世界への扉となるもの、そして、時としてその1冊が人との出会いにつながり、より広い世界へと誘う…それが「本」です。

本との出会いが自分の中に自信や知識といった層を重ね、新たな自分へと導いてくれます。

図書館はその「本」を通じて、一生涯自らを高める場所であるとともに、みなさんの交流の場として誰もが気軽に利用できる「居心地のいい場所」であることを目指しています。

本の宝庫「図書館」は、本の力を信じて、まちの「たからもの」として、皆さんとともに歩み続けます。

図書館トピックス

数字で見る図書館の20年

項目	平成10年度	平成29年度
市民1人あたりの貸出冊数	3.6冊	4.9冊
図書館利用カード登録率	23.4%	63.0%
登録者1人あたりの貸出冊数	15.2冊	7.8冊
市民1人あたりの資料費	333円	286円

※ 本館のみのデータ
※ 平成10年度は旧長門市のデータ

こんな資料もあります！

弱視者や高齢者にも読みやすい大活字本や点字図書、日常のちょっとしたすき間時間に聞くことのできる朗読CD、本の内容を理解することが苦手な人でもやさしく読めるLLブックなど。図書館は、誰もが本の世界の扉を開けるようこれからも資料の収集に努めます。

見つけてください 私なりの図書館

～利用者に聞きました～

8歳の勇和くんと5歳の栞さんとともに週2回は図書館を利用する倉永晴美さん。勇和くんが保育園に通う頃、保育園に来ていたぐるブック号で本を借りて読み始めたことが図書館に通うきっかけとのこと。勇和くんは今では日記に「図書館が大好きで3年くらい住みたい」と書くほど、図書館が大好きになったそうです。

▲ぐるブック号がきっかけで図書館が好きになった

「広くて静かで集中して本が読めるところが好き」と図書館が好きな理由を語る勇和くん。図書館に来るようになって、日常で使う言葉遣いや心遣いが優しくなったそうです。栞さんもお兄ちゃんの影響で本を読むようになり、『おばけずかんシリーズ』がお気に入りとか。

「子どもたちは、面白い本から入って今ではたくさん読むようになった。むさぼるように読んでいます」と晴美さん。「あなたにとって図書館とはどんな存在ですか？」との問いに「心を豊かにしてくれる場所」と答えてくれました。

退職後、時間が取れるようになったので本を読もうと、図書館で読みたい本をリクエストしたことが図書館を利用するようになったきっかけという田村悟さん。「読みたい本をリクエストしたら気持ちよく応えてくれた」と、最初はそのサービスに驚いたそうです。

週に1回程度、図書館を訪れて新聞紙面で気になっていた本などをチェック。小説以外ならどんな分野も読むそうで、お孫さんと話す時のために絵本や児童書なども借りることも。また、年間100冊読むことが目標でここ5年間は約70冊ペースで読まれているとか。

新刊のリクエストなど、司書と話すことが多い田村さん。「みなさん、いつも笑顔で出迎えてくれて、とても親切にしてくれる」と印象を語ります。「あなたにとって図書館はどんな存在ですか？」との問いに「本の中にいる安心感と楽しみがあり、好奇心も刺激する心の広場」と答えてくれました。

▲司書とのやりとりが図書館へ来るきっかけに

本は「たからもの」

「本はめんどくさい、借りるなんてもってのほかだ」

私は18歳まで本とまったく無縁でした。ところが、学生時代に出会った1冊の小説が、私を本好きにしてくれました。雑誌も含めて月に5～6冊の本と出会い、今や生活の一部になっています。本で知り得た場所に無性に行きたくなることさえあります。

私にとって本は大切な情報源であるとともに、考え方を広げたり、深めたりするものになっています。生活を豊かにし、心を震わせてくれる本はまさに「たからもの」なのです。

長門市立図書館長　濱野泰則

■問い合わせ
市立図書館（仙崎441番地1）
℡26-5123

便利なレファレンスサービスをご利用ください

さまざまな質問に図書館の資料などを調査して回答するサービスで、皆さんの調べものをサポートします。

あなたの地域に図書をお届け 移動図書館車「ぐるブック号」

本は読みたいけど、なかなか図書館まで行く機会がない、図書館まで行く交通手段がない。そんなお悩みは移動図書館「ぐるブック号」が解決します。

約1、500冊の本を載せて3コース（27ステーション）を巡り、皆さんの元へ本を届けています（詳細は27ページ参照）。

便利な機能もあります！ 市立図書館公式ホームページ

〈Myページ〉を使う

図書館の蔵書をウェブ上で自分流にアレンジできます。「これから読みたい本」「読み終わった本」の管理をすることで、読書記録として活用可能です。

※図書の予約もできます

SDI（新着図書）メール配信

毎週水曜日、図書館で受け入れた新着図書のお知らせメールを配信しています。キーワードを設定しておけば、該当図書を逐次メールでお知らせします。

※いずれのサービスにもメールアドレスの登録が必要です